

現場伝道のための伝道訓練1

4. 主はこのように指示されました

イエスは彼らに言われた。「わたしについて来なさい。あなたがたを、人間をとる漁師にしてあげよう。」(マタ4:19)

「誰が提案したのか思い出さないのでありますが、私たちは世界地図を買ってきて、何週間もの間、いろいろな国と民族のために祈り始めました。毎朝、私たちはその地図を広げて、中国、韓国、日本、台湾という小さい島、そして、フィリピンなどをいちいち指さしながら祈りました。少し後には、ギリシャ、キプロス、エジプト、そして、アフリカのいろいろな国々のためにも祈り始めました。世界のほとんどすべての国々を指さしながら「おお神様、私たちを用いてくださって、これから、いたる所で、あなたのための働き人が集まれるように助けてください」と祈りました。そのとき、私たちの心には真に感謝と喜びがあふれました。祈り始めて42日目になって、私たちは心の重荷が軽くなったことを感じ、主が答えてくださって、ご自分の約束を成し遂げてくださることに対する信仰で感謝し始めました。私たちは、その祈りがどんな結果をもたらすのか、全く予想できませんでした。その後、4年間、アメリカのすべての州でたましいが私たちのところに出てきて、救い主を知るようになる、全く思ってもいなかったことが起きました。神様はあふれるように私たちの祈りを答えてくださり、そのようにして、今日、ナビゲーターと名付ける働きが始まったのです。私が天国に行く後悔することが2つあるのですが、一つはさらに多くの時間を祈りで神様とともに送れなかったということで、もう一つは、さらに多くのものを神様に求めることができなかったということです。私は一日一節の暗唱を目標にして、千日間で、千の聖句を覚えました。100%達成のため、強い熱望がなかったとすれば、決してこのことをやり遂げることができなかったでしょう。キリストをあかしすることも同じです。働きを始めた当時、私たちの目標は、一日にひとつのたましいに会って、一日一節ずつ暗唱しながら、一日一時間ずつ個人的に敬虔の時間を持つことでした。これらの中の一つでもしなくてそのまま通り過ぎることをせず、どのようにしてでも、必ずその目標を成し遂げてしまいました。人間は本来、怠ける存在です。」

ナビゲーター宣教会の創始者ドーソン・トロットマン(Dawson Trotman, 1906~1956)のあかしです。彼は1926年に主を受け入れた後、生涯、神様に向けた燃える心とキリストを知ろうと思う強烈な熱望の中で伝道者の生活を送りました。そして彼は、1956年6月18日修養会の途中、ニューヨークのシュローン(Schroon)湖で水にはまったひとりの少女を救い出すためにいのちを捧げました。

イエス様は、弟子を3年間、集中的に訓練されました。そして、天に昇られる前に、弟子たちに命令されました。「それゆえ、あなたがたは行って、あらゆる国の人々を弟子としなさい。そして、父、子、聖霊の御名によってバプテスマを授け、また、わたしがあなたがたに命じておいたすべてのことを守るように、彼らを教えなさい。見よ。わたしは、世の終わりまで、いつも、あなたがたとともにいます。」(マタ28:19~20)

これは、世の中を生かすことができる最後の方法です。信徒が最も信徒らしい生活を送ることができる道です。当時の社会、政治、経済、文化に絶対に揺れない弟子が必要でした。それゆえ、イエス様は3年間、次の通り教えて指示されました。

1. 少数集中

イエス様は、弟子を募集されたのではなく、少数の人を直接、選択して呼ばれて集中するようにされました。イエス様が3年間、少数の弟子を集中的に訓練させられた理由は、主を全く信じて従う確実な働き人として立てるためです。パリサイ人とギリシヤ文化、ローマ政治、世の中の誘惑、ねたみ、嫉妬、悪魔の策略に勝てる働き人のことを言います。その少数を通して、多数を救い出されるためです。ですから、使徒パウロは、彼の弟子テモテに次の通り教えたのでした。

「多くの証人の前で私から聞いたことを、他の人にも教える力のある忠実な人たちにゆだねなさい。」(Ⅱテモ2:2)

イエス様がさせられた訓練は、何かをたくさん学んで修練するのではなく、捨てる訓練でした。すべての心配と動機、人間中心主義的方法、不信仰をみな捨てることです。そして、主について行くことです。

なぜ伝道がうまくできないのでしょうか。主の心がなくて、主に従わないためです。肉的動機と世の中の知識と世の中の方法で、いっぱいになっているためです。その全てのを捨てて、主について行くとき、みわざが起きます。

2. 同居

イエス様はご自身のお望みの者たちを呼んで、十二人を使徒として立てられました。そして、彼らを自分とともにいるようにさせ、また彼らを遣わして福音を宣べさせ、悪霊を追い出す権威を持つようにされました。(マコ3:13~15) イエス様の訓練方法は、パリサイ人の方法とは次元が違いました。イエス様は、弟子たちを現場に連れて通われ、直接、伝道者の生活を見せられました。そして、弟子たちと質問をやりとりしながら、対話をして教えられました。弟子たちは、イエス様に付いて回りながら、祈ること、伝道すること、いやすこと、悪霊を追い出す

ことなどを見て、天国の福音を聞きました。

3. 十字架

イエス様はご自分に従う群衆に言われました。「だれでもわたしについて来たいと思うなら、自分を捨て、日々自分の十字架を負い、そしてわたしについて来なさい。自分のいのちを救おうと思う者は、それを失い、わたしのために自分のいのちを失う者は、それを救うのです。」(ルカ9:23~24)

イエス様に従っていく弟子の生活は、自分の十字架を負って主について行くことです。そして、主のために命をかけることです。ダニエルは獅子の穴に投げ込まれることを分かりながらも、一日3度ひざまずいて切実に祈りました。(ダニ6章)ダニエルの三人の同僚は、火の燃える炉に投げ込まれても、偶像の前にお辞儀をしませんでした。(ダニ3章)エステルは「私は、死ななければならないのでしたら、死にます。」という覚悟で出て行って民族を救いました。(エス4:16)ステパノは死を覚悟して、自分の民族の前にキリストを宣言して殉教しました。(使7章)チュ・キョル牧師は、一死覚悟の信仰で、神社参拝を拒否して信仰を守りました。彼らの心の中には、主に向かった純然な信仰と愛、確信、そして、その上に注がれた神様の恵みが満ちていました。ですから、主が与えられた十字架を、大胆に喜んで負って主について行くことができたのです。弟子は、自分に与えられた十字架を負って主に従っていくべきです。

4. 模範

イエス様は、弟子たちを連れて通いながら、父なる神様のみことばに徹底的に従順にする生活、伝道する生活、祈る生活を見せてくださいました。イエス様は聖書を90回以上引用することによって、聖書の権威を見せてくださいました。(マタ4:4, 4:7, 4:10, 12:3~5, 13:14)イエス様は、祈りの手本を見せてくださいました。夜明けに起きて、静なところに行って祈られ、(マコ1:35)イエス様は山に登って夜が明けるまで祈った後に、十二使徒を立てられました。(ルカ6:12)イエス様は、働きを終えて群衆を帰された後に、祈るためにひとりで山に登られました。(マタ14:23)そして、そこで一人でおられました。ガリラヤの湖での大暴風を通して信仰で環境を克服する方法を教えられました。(マタ8:23~27)また、二匹の魚と五つのパンの奇跡を通して力を見せてくださることによって、弟子たちもそのような事を行えるということを教えてくださいました。(マタ14:13~21)悪霊を叱って追い出されることによって、悪霊につかれた子どもをいやされました。(マタ17:18~20)そのとき、弟子たちがイエス様に尋ねました。

「なぜ、私たちには悪霊を追い出せなかったのですか。」

イエス様は言われました。

「あなたがたの信仰が薄いからです。」

イエス様は信仰の証拠を見せてくださったのです。イエス様は小さいたましいに対するとき、とても大切に思う態度を見せられ、(ルカ18:15~16)最後の過越の祭りでは、自ら手ぬぐいを取って腰にまとして弟子たちの足を洗ってくださることによって愛の模範を示されました。(ヨハ13:1~15)イエス様は十字架につかれる前に、ゲツセマネの園で切実に祈りによって準備されました。(マタ26:39~42)神の国の働きをするときに、祈りで準備する姿を見せてくださったのです。

5. 従順

イエス様がシモン・ペテロと彼の兄弟アンデレに言われました。

「わたしについて来なさい。あなたがたを、人間をとる漁師にしてあげよう。」

そのとき、彼らすぐに網を捨ててイエス様に従いました。(マタ4:19~20)彼らは主を信頼していたためです。

まことの従順は、主を愛することによって、信頼して従順にすることです。主のみこころに従うことです。私の知性に依存するのではなく、主の命令に依存することです。私の計画に固執するのではなく、主の計画を見つけることです。私の方法を守るのではなく、主の方法について行くことです。信仰が成長できなくて、伝道に無気力な理由は何でしょうか。それは、不従順のためです。従順の原理は、世界福音化に向かって上がらなければならない確実な階段です。イエス様は、受肉と誕生、公生涯、十字架、復活、昇天まで父なる神様のみこころに一貫して従順にされました。私たちも主を愛するゆえに、いのちをかけて従順にしなければならないのです。

6. 代任

伝道者の歩みは、キリストの代任であることを記憶しなければなりません。(マタ10:40;10:42, ヨハ13:20)イエス様が送られた者を受け入れる者は、イエス様を受け入れることで、イエス様を受け入れる者は、イエス様を遣わした方を受け入れることだと言われました。すなわち、伝道者を受け入れることは、主を受け入れることです。伝道者は、主の代任者であることを心に刻んで、大胆に現場に出て行かなければなりません。そして、私たちがイエス様の弟子であるという理由のゆえに、私たちに水一杯でも飲ませるなら、その人は決して報いに漏れることはありませんと言われました。私たちはキリストの大使として現場に行くのです。

7. 分与

イエス様は次のように言われました。

「見よ。わたしは、世の終わりまで、いつも、あなたがたとともにいます。」(マタ28:20)

昇天された後、神様の右に着かれたイエス様は、弟子たちが至る所で福音を宣べ伝えたときにも働いてくださいました。(マコ16:19~20) イエス様は、今でも私たちがいる所で働いておられます。誰でも悔い改めて、イエス様を救い主として信じて受け入れれば、イエス様はその人の中に聖霊を注いでくださいます。聖霊は神様ですから、創造の霊であり、真理の霊であり、キリストの霊です。救われたということは、聖霊がその人の中に内住されるということと同じです。私たちが信仰生活をするには、聖霊の導きを受けることと同じです。イエス様は、昇天される前に確かに約束してくださいました。

「しかし、聖霊があなたがたの上に臨まれるとき、あなたがたは力を受けます。そして、エルサレム、ユダヤとサマリヤの全土、および地の果てにまで、わたしの証人となります。」(使1:8)

イエス様が天の御座に着かれて送ってくださった聖霊は、同時にすべての信徒とともにおられます。それゆえ、私たちが聖霊に満たされる時に、力を受けるようになって、主の証人として立つようになります。今でも聖霊は教会の中で働いておられ、伝道者の歩みの中に働いておられます。聖霊が私たちとともにおられるので、私たちには重大な悟りも与えられます。(ヨハ14:26, 16:4) 聖霊がすべてのことを教えてくださり、イエス様のみことばを思い出すようにしてくださるからです。このように、イエス様が注いでくださった聖霊が、それぞれの信徒とともにいて働かれるのが「分与」の原理です。今でも分与の事実を信じてキリストの御名で出て行って福音を宣言する所には、聖霊の働きが起きます。(使3:1~10、8:4~8、11:21)